

つがるの昔っこ (昔話) ⑤

餅が になった話

(標準語Ver.)



国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト：やざわ ゆな
カラーリング：つしま けいこ

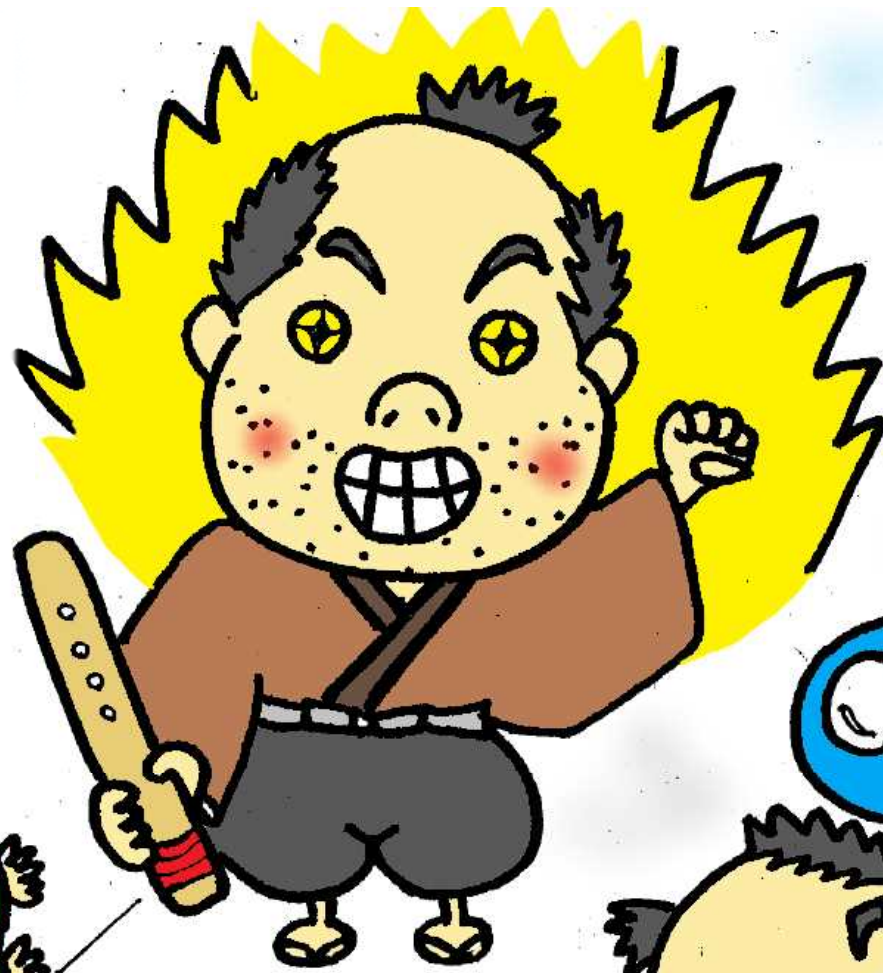


昔ある村に心の優しい、おじいさんとおばあさんがおりました。おじいさんはおばあさんの作った餅を担いで、街の神社の初詣に行ったそうです。

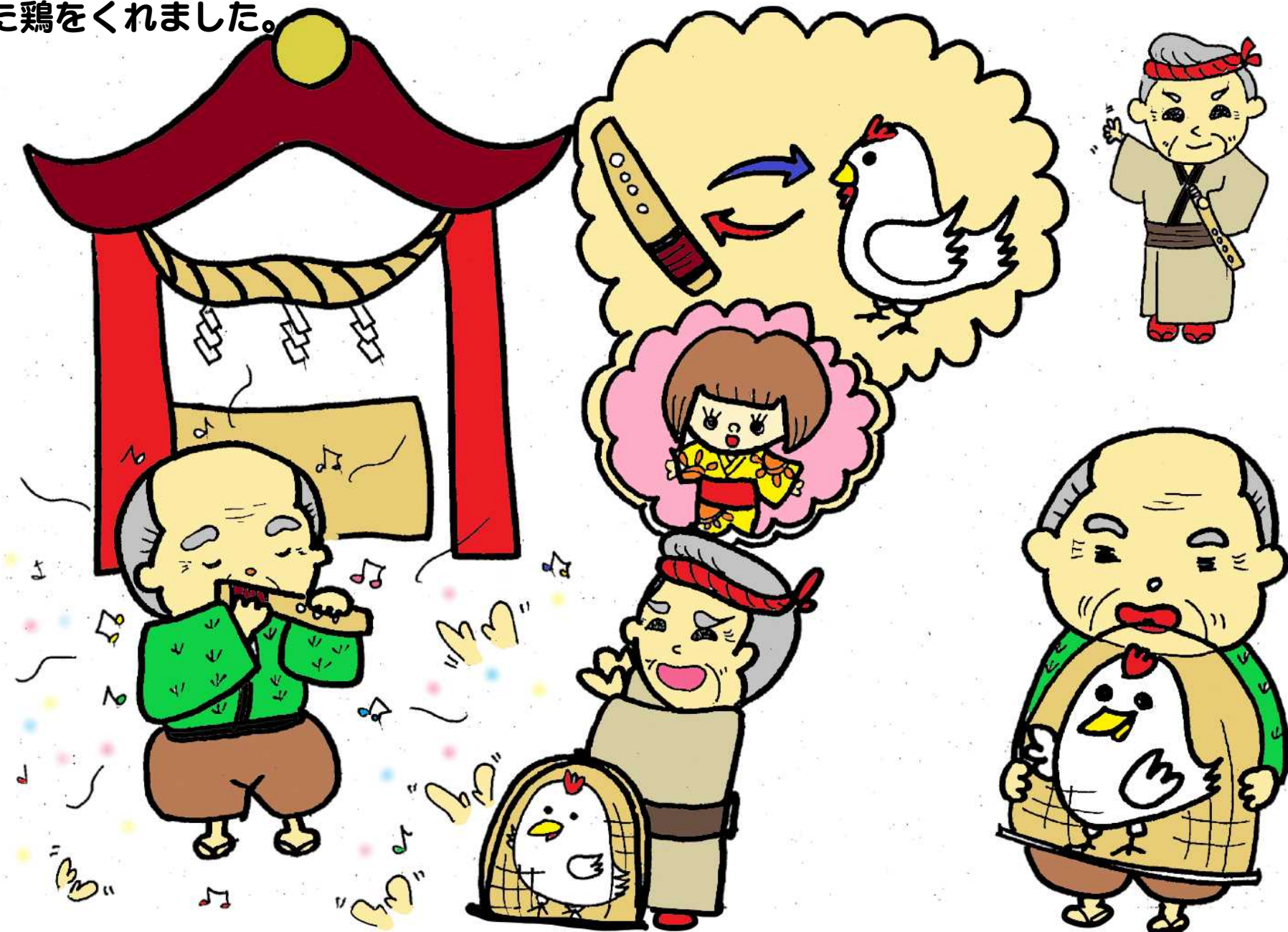
途中まで来ると、おなかをへらして、「うんうん」と、うなっている男がおりました。おじいさんは、気の毒に思い持っていた餅を食べさせてあげました。



むしゃむしゃ ペろっ
と平らげた男は「おかげ
さまで元気になりました。
私はお金も何もないので
お礼にこの笛をあげま
す。」と言い、腰につけ
ていた笛を抜いておじい
さんに渡しました。

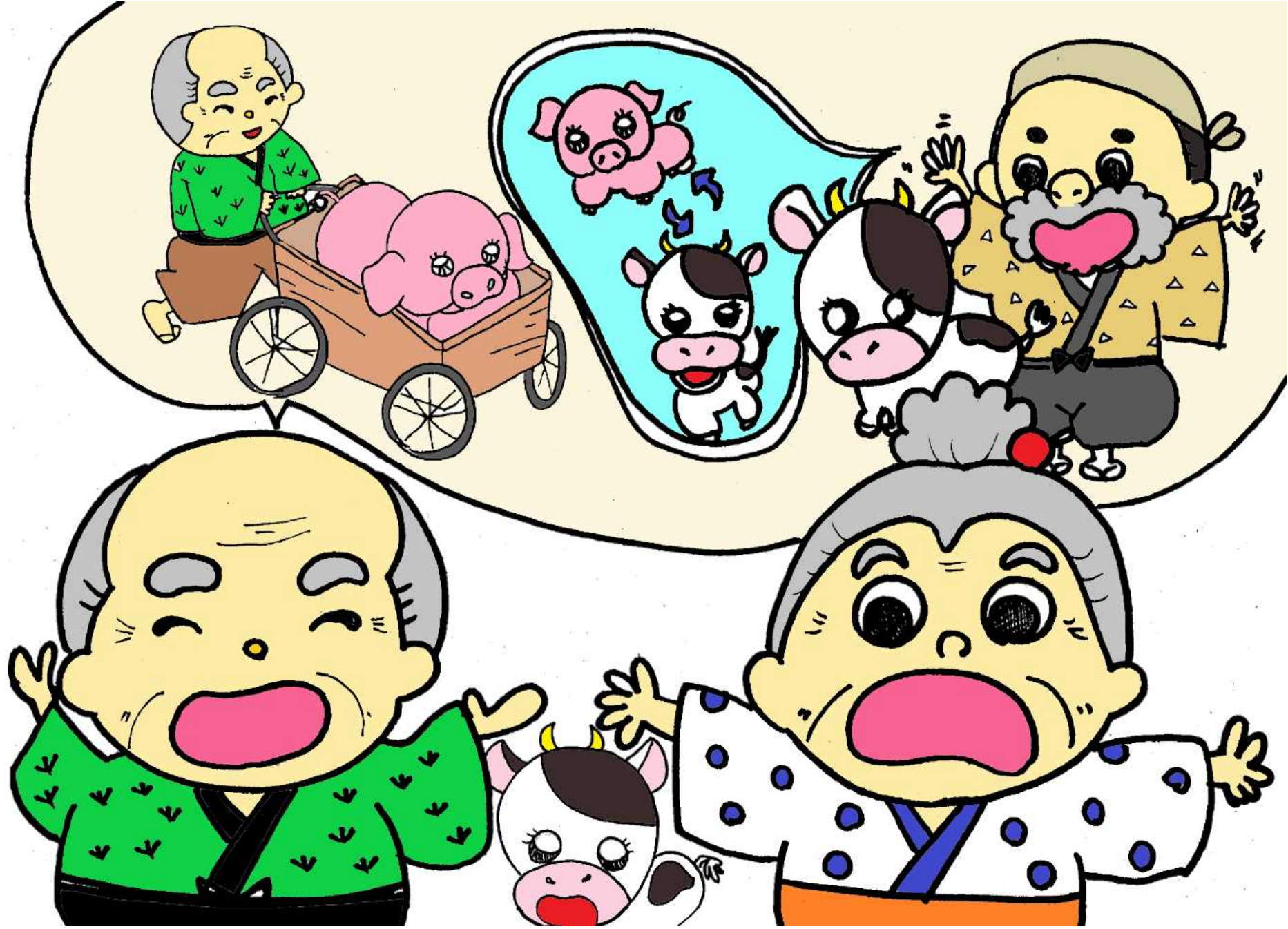


こうして笛をもらったおじいさんは、神社に着いてお参りしました。「神様、餅の代わりに私の笛を聞いてください。」と言い、笛を吹いたそうです。とてもいい音色だったそうです。おじいさんの笛を聞いた、鶏売りの商人が「なんていい音色なんだ。こんなにいい笛ならばウチのかわいい孫に土産にしたいので、おじいさん その笛をこの鶏と交換してはくれませんか?」と言い、ころっと太った鶏をくれました。





鶏をもらったおじいさんは 家に帰って卵を産ませて、おばあさんと一緒に食べようと思い、抱いて帰っていると、途中で豚を売っている商人に会いました。豚売りの男は鶏を見て「良いにわとりだなあ 私の孫は病気で寝込んでいるので、孫に卵を食べさせてあげたい。おじいさん その鶏をこの豚と交換してください。」と言い、豚をくれました。

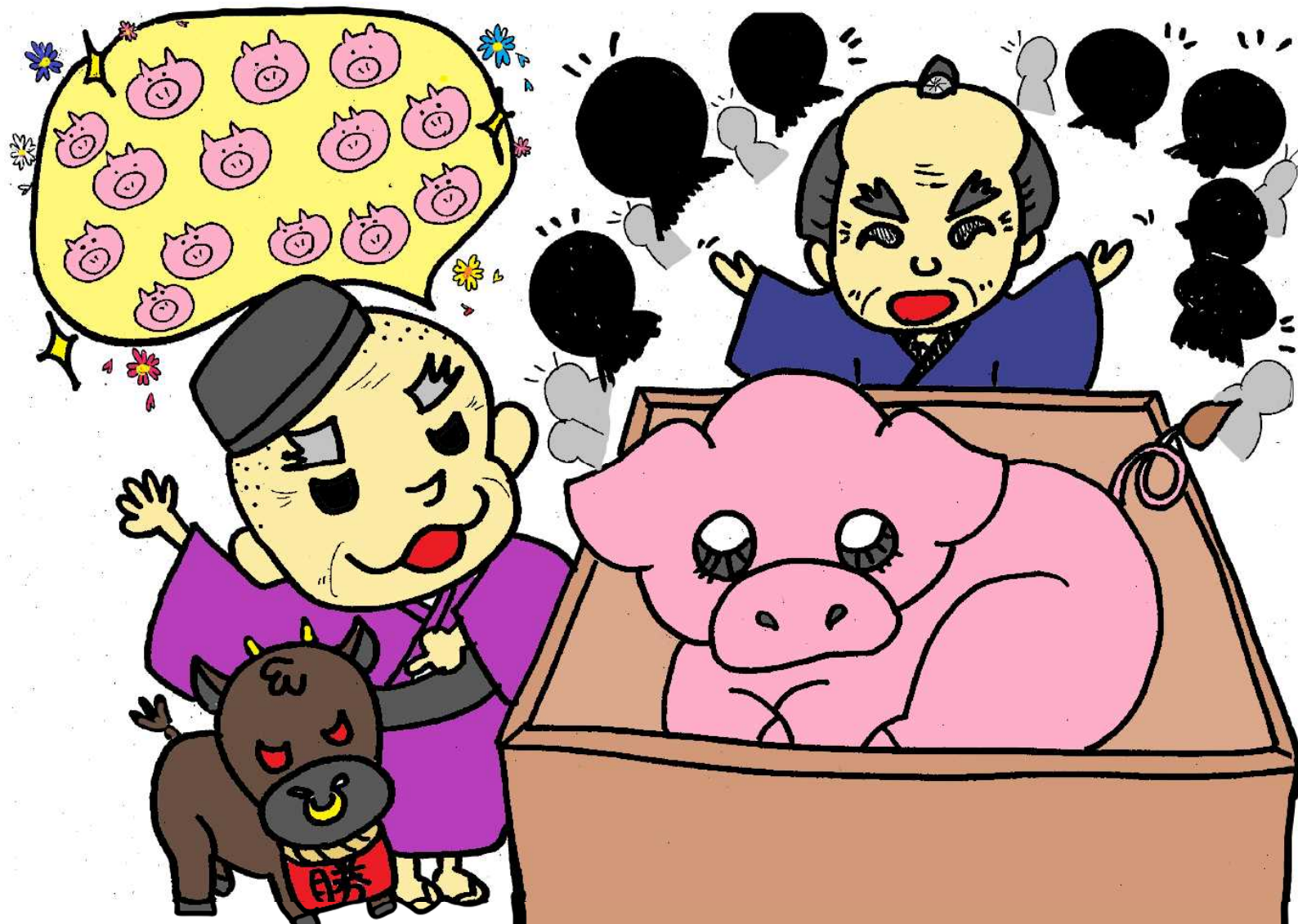


今度は、おじいさんは豚を連れ、歩いておりました。そうしてだいぶ進むと向こうから牛の子を連れてくる男がきました。「私は今、この牛の子を売り、豚を買おうと思って来ました。丁度いいのでその豚とこの牛を交換してください。」と言い、牛をくれました。おじいさんが帰るまでに餅は牛になってしまったんだそうです。



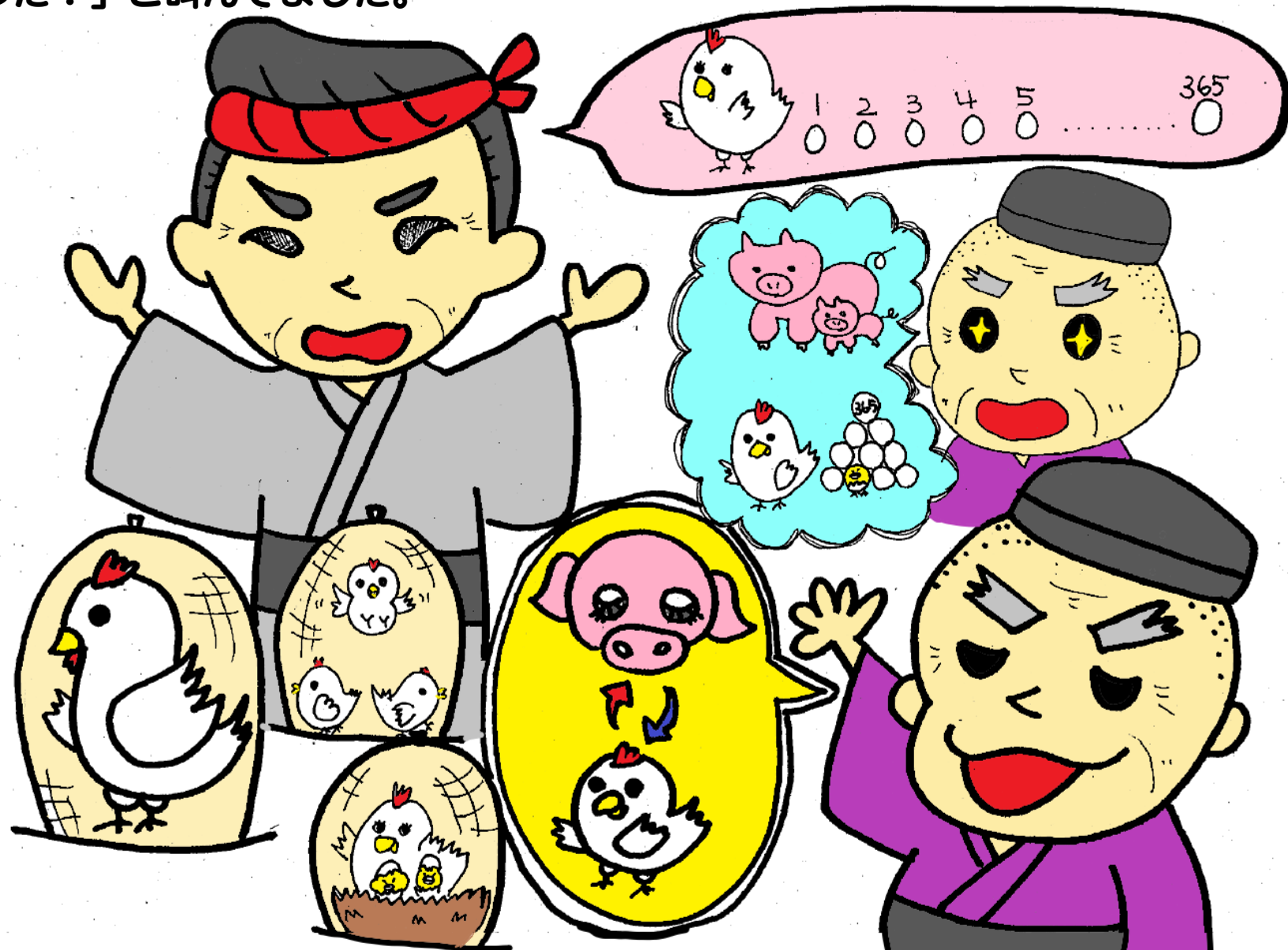
さあ、この話を聞いた隣村の欲深いじいさんが「なにになに？ 餅が牛になったって？ううんじゃあ私は牛を連れて行って、もっといい物に交換してこよう。」と言い、一番良い牛を連れて街に行ったそうです。

街に来ると人だかりがありました。欲張りじいさんですから、何だろうとのぞいてみると豚売りの商人が豚の子を売っているところでした。「さあさあ この豚の子1年飼ってみてください。来年の春になれば生まれる子は13匹だ。13匹も子が生まれれば大もうけですよ さあ 買っていきませんか？」

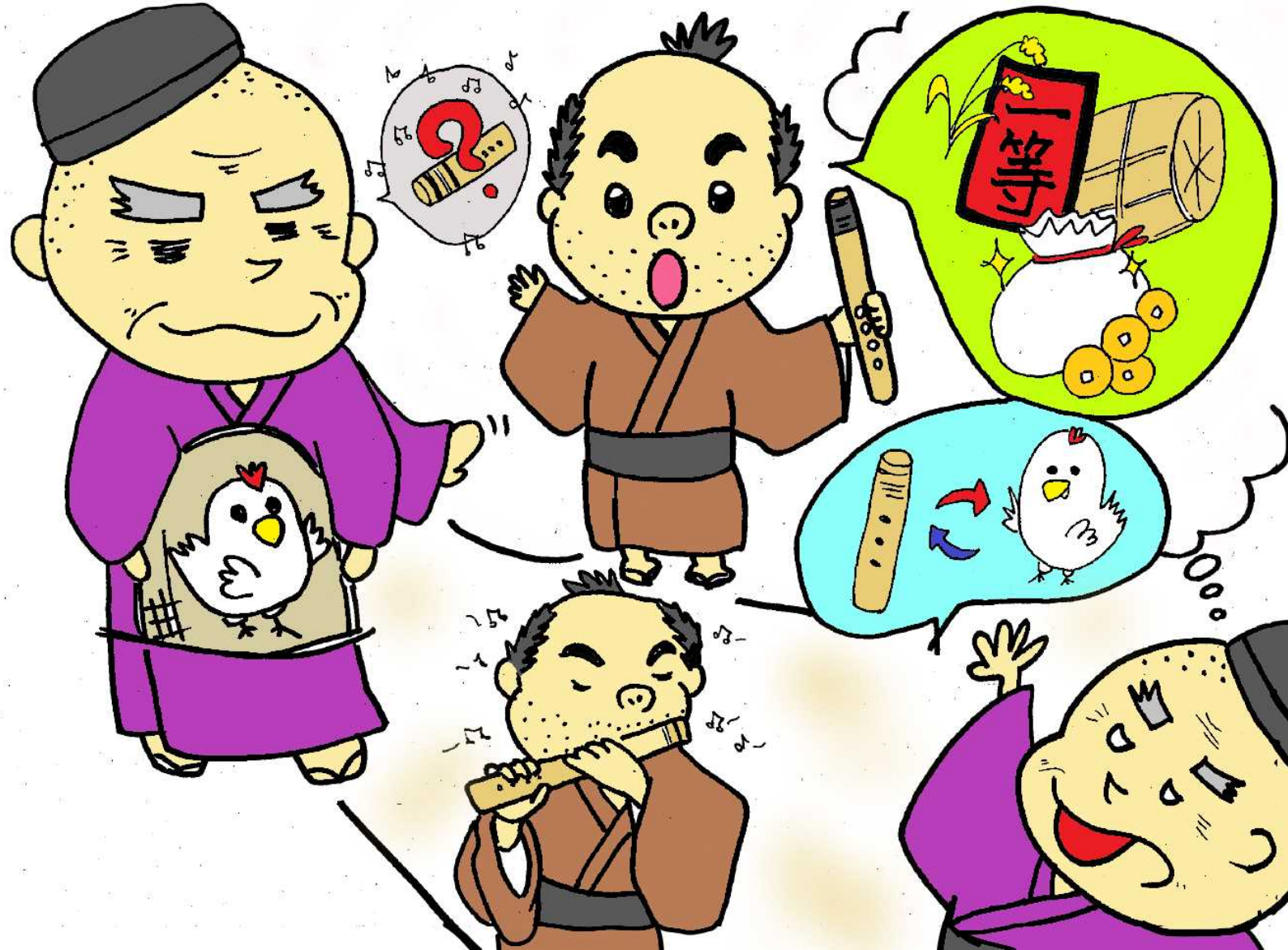


さあ それを聞いた欲張りじいさん 欲の皮がブクブクと膨らんできて、「父さん、父さん その豚をこの牛と交換してください。」と言い、豚の子と牛を交換したそうです。「牛は1頭しか子供を産まないけれど、豚の子は13匹も産む。これは儲けた儲けた」と言い、にこにこ笑いながらまたずっと歩いていきました。

すると鶏売りが鶏を売っていたそうです。「さあさあ 鶏はいかがですか？この鶏は良い鶏ですよ。買っていけば今日から毎日毎日良い卵を産むよ。毎日産めば、1年で365個ですよ。さあ買った買った！」と叫んでました。



欲張りじいさんの欲の皮がまた膨らんできて「豚の子なら1年待たなければ子を産まないが、鶏なら今日からでも一年中卵を産む。これは、豚よりも鶏の方が得かもしれない。」と思い、豚の子と鶏を交換してもらいました。

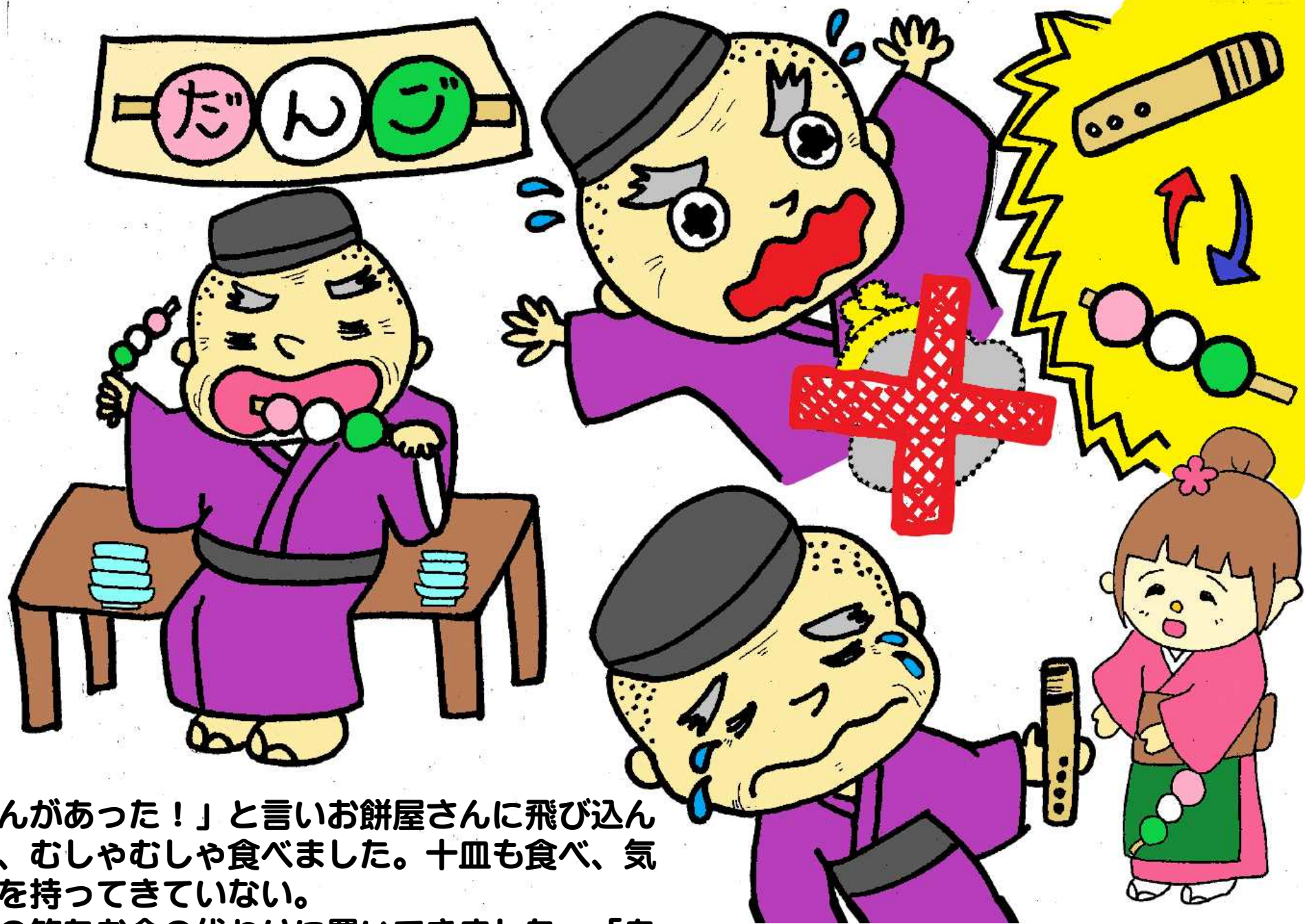


欲張りじいさんは、こうして鶏を抱えて街の外れまでくると、今度は笛を吹いている男がいました。欲張りじいさんは「これこれ 祭りでもないのに どうして笛を吹いているのかな？」と聞くと「今年の秋のお祭りで、笛吹き大会があって 1等をとればお金や米をたくさんもらえるんですよ。それをねらって今から稽古しているんですよ。」

さあ、それを聞いたじいさん またまた欲の皮ブクブク膨らんできて「そうだ 私も若い頃は笛を吹かせたら村一番と言われたものだ、今から稽古すれば その賞金と、賞品は私の物だ！」と、言うわけでその笛を無理矢理鶏と交換してもらいました。



欲張りじいさんは歩きながら笛を吹いていると、日は暮れて晩になってしまいました。朝早くから牛を連れ、遠くの街まで来たもので、もうお腹がへり、目も回ってきました。笛を吹くどころか、あっちへヨロヨロ、こっちへヨロヨロもう一歩も歩けないという時丁度そこにお餅屋さんが見えました。



「お餅屋さんがあった！」と言いお餅屋さんに飛び込んで餅を注文し、むしゃむしゃ食べました。十皿も食べ、気がつくとお金を持ってきていない。

とうとうその笛をお金の代わりに置いてきました。「ああ 私の牛は餅になってしまった、、」欲張りじいさんは泣きべそかいてとぼとぼと家へ戻って行きました。人はあんまり欲をかくと、だめだ というお話です。